

# いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手  
第195号  
令和7年度第2号



## 三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

### 岩手県東日本大震災津波追悼式

岩手県・盛岡市  
IWATE・MORIOKA

岩手県は、東日本大震災津波から15年となる令和8年3月11日(水)、盛岡市のトーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)において、盛岡広域首長懇談会との共催で、岩手県東日本大震災津波追悼式を執り行いました。

当日は、牧野復興大臣や県選出国議員を始めとした御来賓のほか、県民など約300人が参列し、地震発生時刻の14時46分に合わせて黙とうを捧げました。

式辞で、達増知事は「犠牲になられた方々のふるさとへの思いを受け継ぐこと、そして、東日本大震災津波の事実と教訓を確実に未来に伝承し、復興の姿を国内外に発信することは、私たち岩手県民の責務」とし、「国内外で大きな自然災害が起きている中、私たちは、自然災害に強い社会の実現に貢献できるよう、東日本大震災津波を今後も伝承」と述べてきました。

また、「未来へのメッセージ」では、岩手県立釜石高等学校2年生の森真心さんが、「当時の鮮明な記憶がないからこそ、自ら学び、受け取り、伝えていく責任がある」とし、「震災を経験した方々の教訓や当時の記憶を決して色褪せることのないように、自分自身も教訓を語り継ぎたい」、「震災を知らない世代に語り継いでいくことが、私たちの使命だ」と述べてきました。

この後、参列者は献花台に花を手向け、犠牲になられた方々を悼み、大切な人に想いを寄せました。

また、同日午前には、達増知事と城内県議会議長が、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園で献花をし、被災地で犠牲になられた方々の御冥福をお祈りしました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課  
☎019-629-6945



会場の様子



式辞を述べる達増知事



献花する牧野復興大臣



未来へのメッセージを発表する森さん



黙とうを捧げる参列者

## 開催 令和7年度 第2回いわて復興未来塾開催

令和7年11月22日(土)、「震災津波から15年～三陸ジオパーク・みちのく潮風トレイルと震災伝承～」をテーマに、令和7年度第2回「いわて復興未来塾」〔併催：いわて三陸復興フォーラム(沿岸報告会)〕を開催しました。

午前にエクスカージョンとして実施した大槌町語り部ガイドには、37名が参加しました。高台までの避難路体験等、震災津波からの教訓等を学びながら、三陸ジオパークの見どころである蓬莱島を見学しました。



蓬莱島を見学する参加者

午後は、大槌町文化交流センター おしゃっちを会場に、基調講演及び事例報告を行い、57名が参加しました。基調講演では、(認定NPO法人)みちのくトレイルクラブ常務理事の相澤久美さんから、みちのく潮風トレイルにおける地域に根差した取組や震災伝承との関わ

り等について、ご講演いただきました。事例報告では、トラベル・リンク(株)代表取締役社長の北田耕嗣さんから、三陸地域への誘客に係る自社の取組や課題、震災復興ツーリズムの重要性等についてお話がありました。また、三陸ジオパーク認定ガイドの伊藤実知子さんからは、三陸ジオパーク等を歩きながら触れることが出来る震災津波の爪痕や教訓等についてお話がありました。



基調講演の様子

参加者からは、「現地で聞く、知ることが大切」、「一人でも多くの人に三陸の魅力を知ってもらえるような活動を心がけたい」などの声が寄せられました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課

☎019-629-6945

基調講演・事例報告の様子はこちらから➔



## 世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわて TSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

東日本大震災津波伝承館では、令和7年12月24日(水)から令和8年3月2日(月)まで、令和7年度第3回企画展示「冬の地震・津波に備える」を開催しました。また、令和8年3月4日(水)から3月31日(火)まで、令和7年度第4回企画展示「未来の命を守るために～人材育成と震災伝承～」を開催しています。

第3回企画展示では、冬場の地震・津波発生時には、積雪・低温・凍結・乾燥などの影響により、春～秋季よりさらに困難な状況が生じることから、冬季に発生した過去の災害の課題や教訓を振り返りながら、冬の地震・津波への備えについて紹介しました。

第4回企画展示では、東日本大震災津波から15年を迎えるに当たり、改めて被害及び復興の状況を振り返るとともに、新たな課題や次の災害に備えた取り組みについて紹介しています。

国内外で様々な自然災害が起きていることもあり、ご覧いただいた皆さまからも災害への備えに対する関心の高まりがうかがえます。ご来館の際は、常設展示とあわせて、ぜひご覧ください。

東日本大震災津波伝承館では、今後も企画展示を通じて、東日本大震災津波の事実と教訓を多くの方々と共有しながら、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指します。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館

☎0192-47-4455



第3回企画展示の様子

開催

## 岩手と海外の高校生が 防災意識を共有

 陸前高田市  
RIKUZENTAKATA

令和7年12月5日(金)、6日(土)、県立高田高校とインドネシア共和国アチェ州のバンダ・アチェ第一高校の生徒が、お互いの伝承活動の紹介や震災遺構の視察等を通して、これからの防災について共に考える交流会を陸前高田市で開催しました。

この交流会は、県が東北大学災害科学国際研究所や海外津波博物館等の協力の下、東日本大震災津波の事実と教訓を伝承・発信し、国内外の防災力向上に貢献するとともに、次代を担う伝承の担い手の育成につなげるため、令和4年度から開催しているものです。

1日目は、お互いの学校で実施している防災の取組について発表した後、指定避難所である陸前高田市コミュニティホールにおいて、防災テントや簡易ベッドの組み立てを共同で行いました。さらに、3.11仮設住宅体験館に赴き、ビニール袋を用いた非常食の調理実習や宿泊体験を行いました。2日目は、高田松原津波復興祈念公園パークガイドの案内で、タピック45(旧道の駅高田松原)等の震災遺構を視察した後、2日間の交流内容を振り返り、学んだことや感じたことを発表し合いました。

両校生徒は、2日間の短い間でしたが、防災意識を共有しながら交流を深めることができ、交流会終了後も、しばらく別れを惜しんでいました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課  
☎019-629-6945



交流会後の記念撮影の様子

開催

## 東日本大震災風化防止イベントを開催

 東京都  
TOKYO

令和8年3月7日(土)から3月11日(水)まで、東北4県(青森県、岩手県、宮城県、福島県)と東京都は、東日本大震災の風化防止や復興支援への感謝等を伝えるため、「つながる想い、その先へ」をキャッチフレーズに、東京都港区の汐留シオサイトにおいて「東日本大震災風化防止イベント～復興・その先へ2026～」を開催しました。

会場では、復興状況のパネル展示や被災地で活動する語り部によるトーク、東北に寄り添い続けるなすびさんのメッセージ動画の放映などを通し、震災から15年の復興の歩みを発信しました。また、体験を通して学ぶ防災・減災コーナーのほか、震災伝承施設やグルメ・観光情報、東京都による被災地支援活動を紹介するコーナーを設置したほか、「復興イチバ・復興サカバ」を展開し、



パネル展示の様子



東北へのメッセージボード

制作

## 兵庫県・関西地方等で 復興情報番組を放送

 兵庫県・関西地方  
HYOGO-KANSAI AREA

令和8年1月18日(日)、サンテレビ(兵庫県)で、岩手県が企画した復興情報番組「いわて三陸 希望のまちめぐり ～Build Back Better～」を放送しました。

この番組は、兵庫県を中心とする関西地方等の方々に、震災津波の教訓、復興の取組、支援活動等に対する感謝、いわて三陸の魅力を発信することを目的に制作したものです。

番組には、兵庫県出身で岩手県に移住したお笑い芸人の天津木村さん、岩手県出身で乃木坂46メンバーの佐藤璃果さん、兵庫県出身でお笑い芸人の安田大サーカス団長安田さんらが出演しました。

番組内では、雄大で美しいリアス海岸を歩く「みちのく潮風トレイル」や三陸鉄道震災学習列車、漁業従事者の岡田真由美さん(東京都から大船渡市への移住)を紹介し、三陸の魅力を発信するとともに、東日本大震災津波伝承館において、解説員の説明を交えながら、震災津波の教訓を伝えました。また、令和7年9月に兵庫県で開催した創造的復興サミットや元阪神タイガースの松山進次郎さんによる復興支援活動、「1.17希望の灯り」から分灯された「3.11希望の灯り」を紹介し、両県のつながりについて取り上げました。

番組を契機に、兵庫県・関西地方と岩手県の絆が更に深まるとともに、お互いの防災力の一層の向上につながることが期待されます。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課  
☎019-629-6945

放送した番組はこちらから➡



開催

## 東日本大震災風化防止イベントを開催

 東京都  
TOKYO

東北4県の特産品や地酒の販売をするなど多彩な催しを実施しました。

イベント期間中は多くの方が来場し、会場内に設置したメッセージボードには、東北に向けた多数の応援メッセージが寄せられました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課  
☎019-629-6945

イベント概要はこちら➡





## 大槌町鎮魂の森「あえーる」

鎮魂の祈りと復興支援への感謝

大槌町鎮魂の森は、東日本大震災津波に関する町全体の「犠牲者への追悼・鎮魂」の場を設けるとともに、町民が日常的に集う「憩い・交流の空間を形成」し、「震災による被害と教訓を伝承」し、「復興への想いを継承」していくため、町が整備し、令和7年7月に完成しました。

愛称の「あえーる」には、遥か彼方へ逝ってしまった方々に「会える」場所であり、また、町の将来への“エール”を送る場所として、たくさんの人たちが集い“会える”場所になってほしいという思いが込められています。

施設内には、芳名碑と献花台が設置され、犠牲者を追悼する場が設けられているほか、中央には、3つの軸（「震災発生時刻を表す太陽の方位を示した軸」「大槌駅と鎮魂の森を結び、人々の交流を意味する集いの軸」「城山公園と蓬莱島を結び、追悼と鎮魂を意味する祈りの軸」）が刻まれた水盤が設置され、この場所が追悼の場であり、交流の場であることを示しています。

また、施設内の「地蔵尊の森」には、支え合いの大切さや支援への感謝を象徴するため、復興支援として贈られた地蔵尊が設置され、「くらしの森」は、防災文化の継承に資するよう、今後、子どもたちによってどんぐりの木が植ええられる予定となっており、木の活用などを通じて、自らの成長とともに関わり続けていく場として位置付けています。

**場 所** 上閉伊郡大槌町須賀町  
**問い合わせ** 大槌町文化交流センターおしゃっち  
 ☎0193-27-5181 E-mail:oshatti@town.otsuchi.iwate.jp



大槌町鎮魂の森あえーる全景



# いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介します。第141回は佐々木知恵さん・智桜さんをご紹介します

## 大震災かまいしの伝承者

ささき ちえ ちさ  
**佐々木 知恵さん・智桜さん**



～ 防災の知識をたくさんの人に広めたい!! ～

### PROFILE

知恵さん、智桜さんともに北上市出身。知恵さんは釜石市鶴住居町出身の夫と結婚し、2014年3月11日に智桜さんを出産。釜石市鶴住居町にある「いのちをつなぐ未来館」での勤務をきっかけに、智桜さんとともに「大震災かまいしの伝承者」となり、活動を続けている。

### 親子で語り部として活動

佐々木さん親子は、「大震災かまいしの伝承者」として2022年から活動しています。母親の知恵さんは、釜石市にある「いのちをつなぐ未来館」で事務員として働くうちに、「来館者からの質問に正しく答えられるようになりたい」と伝承者の基礎研修会に参加することを決意。娘の智桜さんも受講を希望し、親子で認定を受けました。

2014年3月11日に生まれた智桜さんは、当時8歳で認定を受けた史上最年少の伝承者です。仮設住宅で暮らしていたこともあり、伝承者になったのは「あの日、岩手で何があったのかを知りたい」という思いからでした。

### 未来のために伝え続ける

発災から15年。来館者から「震災

を知らない子どもたちが増えるなか、伝え続けるのは大切ですね」と言われたこともあるそうです。知恵さんは「私は震災当時、北上市にいたため直接被災したわけではありません。ただ、地域の皆さんからさまざまな話を聞き、それを自分が伝えることで防災を考えるきっかけになればと思っています」と語ります。

一方、智桜さんは、2024年に防災士の資格を取得。現在は英会話も学んでおり、「いつか海外の人たちに英語で語り部がしたいです」と笑顔を見せます。夢は、語り部を続けながら「いのちをつなぐ未来館」で働くこと。お二人は、「時間が経っても油断せず、災害への備えの大切さを伝え続けていきたいです」と教えてくれました。

### 岩手県の被害状況

令和8年1月31日現在

- 人的被害 死者：5,147人（余震、震災関連死を含む）  
行方不明者：1,106人
- 建物被害（住家のみ、全半壊）26,079棟  
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

### 皆様のご支援、ありがとうございます

令和8年1月31日現在

- 義援金受付状況 約188億8826万円(99,988件)
  - 寄附金受付状況 約211億6960万円(32,213件)
  - いわたの学び希望基金(※)受付状況 約108億8970万円(29,458件)
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



## いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第195号

令和8年3月25日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正／永代印刷株式会社